

平成21年(第3回)みどりの学術賞受賞者

わだ まさみつ

和田 正三 (67歳) 九州大学大学院理学研究院特任教授

東京都立大学名誉教授

<功績概要>

光生物学の分野において、植物が正常な発達をするために必要な光受容体の一つとして、赤色光域と青色光域を吸収できるキメラ光受容体ネオクロムをシダ植物で発見し、また、葉緑体が光合成効率を高めるために弱い光に集まり、障害を避けるために強い光から逃避する「葉緑体光定位運動」の光受容体がフォトロピンであること、シダ植物ではフォトロピンの他にネオクロムも働いていることを発見するなど顕著な功績を挙げ、斯学の発展に貢献した。

やはら てつかず

矢原 徹一 (54歳) 九州大学大学院理学研究院教授

<功績概要>

進化生物学の分野において、植物が、昆虫や病原体などとの相互作用に基づく繁殖戦略によって種の多様性を生み出していることを明らかにするなど顕著な功績を挙げ、また、日本の野生植物の絶滅リスクを網羅的に評価したレッドデータブックのとりまとめに中心的な役割を果たすとともに、生物多様性保全の必要性を科学的に明らかにした著作や実践的な活動を通し、国民の理解増進に寄与した。

(年齢は平成21年4月24日現在)